

公益財団法人国民工業振興会
理事長 井上 裕之

理事長挨拶

公益財団法人国民工業振興会では、本年度ご報告する講演会・研修会については、昨年に引き続き開催できておりません。しかしながら昨年度より活動しているLPT (Landing Pad TOKYO) 事業を主体にしたWeb会議による研修会は活発に始動いたしております。

コロナ禍による影響により、他県をまたぐ移動の制限や蜜の回避、会食の制限など、人間同士の繋がりに欲望を期する若者の声が聞こえてくるようなその中、東京オリンピックの開催と応援の在り方など、まだまだ先が見えません。その様な状況下でも公益財団法人国民工業振興会は、Web会議によるミニ研修会を令和2年度事業として8回開催いたしました。内容を記載いたしておりますのでご覧下さい。令和3年4月以降は活発にセミナー等を展開いたしております。このセミナー等については、LPT (Landing Pad TOKYO) のWebサイトに掲載いたしておりますので、併せてごらんください。今年度末には、ワクチン接種の効果による外出解除を期待し、皆さんに講演会のご案内ができますようにと願うものであります。



さて、国民工業振興会では、事務局長として活躍いただいている加藤聖隆氏をご紹介いたします。

現在、有限会社サーフクリーン代表取締役 (2005年設立)、ケイスクエア代表 (2018年設立)、株式会社クリエイティブラボ代表取締役 (2020年設立)、Mixing Lab Inc. CTO (2021年度から)、DMZ EiR (Entrepreneurs in Residence: 日本関連コーチ) を就任しています。

経歴は以下のとおりです。

1993年 早稲田大学理工学研究科電気工学専攻博士課程修了、工学博士。1993年 株式会社日立製作所半導体事業入社。次世代量産技術の開発技術者として多層配線プロセス開発に従事。1997年 米国KLA-Tencor社入社。イールドマネジメントコンサルタントとして、国内外の半導体デバイス量産ラインの歩留まり向上業務に従事。1999年 株式会社ケイテックリサーチ社起業。先端プリント基板製造向けプラズマ処理技術の開発および量産装置の開発・設計・製造を実施。米国大手MPUメーカー向けパッケージ基板およびスマートフォン向けフレキシブル基板の量産ラインで用いられるプラズマ処理装置の開発に成功。サレジオ高専非常勤講師 (2017年度から2020年度)、相模原市経済交流コー

ーター(2016年度から2020年度)、さがみはらロボット導入支援センターコーディネーター(2018年度から2020年度)。

加藤聖隆事務局長挨拶

事務局長 加藤聖隆

この度、公益財団法人国民工業振興会の事務局長を仰せ使いました。長い歴史を持つ法人の事務局長となり、身の引き締まる思いです。今までの自らの製造業に関わる経験を活かし、現在の中小企業が抱える課題をともに解決するように役割を果たしていきたく思っております。

昨年からのコロナの影響により、中小企業を取り巻く環境は大きく変わってきています。そして、未来を見ても過去に戻ることがないことを感じております。このような未来が見通せない不透明な時代において、今こそ、国民工業振興会がその役割を果たすときと思っております。不慣れな点が数多くあることと思います。情熱だけは十分に持ち、この難局に皆様とともに立ち向かっていくつもりです。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



【デジタルツインに関する考え方に 基づく、ロボット技術導入について】

講演者・東大名誉教授 佐藤 知正 zoom 講演

開催月日・時間・令和2年9月15日、10時～11時30分

内容・

製造業のデジタル化が進む中、その先にある考え方としての「デジタルツイン」に関して、ロボット技術導入という立場からわかりやすく説明いただきました。佐藤先生は、国の電子技術総合研究所(現在の産業総合研究所)にて世界に先駆けてロボット技術開発に従事されました。その後、東京大学に移られ世界的なロボット技術の開発を進め、ご退官後も、大学、高等専門学校、地方行政、支援機関、など、多くの場所でご指導を続けていらっしゃいます。

これらのご経験に基づき、デジタルツインというバーチャル空間とリアル空間とをつなげることにより、より効率的な製造ラインを実現できる構想についてご講義いただきました。また、実際の導入事例を含めご紹介いただきました。

コロナ禍において、まさに必要とされている技術が、ロボットなどを用いた遠隔での制御であることもご紹介いただきました。この講義を通して、中小企業が具体的に着手すべき課題およびその手法に関して十分なるヒントを与えていただいたことと思います。

【中小企業製造業 AIを利活用するためのIOT】

講演者・岩手県立大学 総合政策学部 教授 zoom 講演

開催月日・時間・令和2年10月28日、10時～11時30分

内容・

AIという言葉は最近いろいろな場所で聞くようになってきました。しかしながら、実際にどのように活用すればよいのか、という点に関して、複数の事例に基づく、利活用の方法をご紹介いただきました。AIの利活用に関して、技術的な面ではなく、経営戦略論的に導入する方法に関してご講演いただきました。実施の導入に関して、具体的に4段階に分けたステップでの導入に関して説明いただき、具体的な導入方法および注意点を説明いただきました。しかしながら、大きな課題は、人材育成およびビジネスモデルの開発であるという指摘がありました。大企業では取り組みが進む中、中小企業の取り組みの遅れが目立つ状況であるとの現実の課

題がありますが、すでにIoT 技術を導入している企業は AI 導入に着手している状況の紹介がありました。導入における最大なる課題は、AI 技術を用いたグランドデザインが必要であり、これが実現できるのは経営者である、そのために経営者のリテラシー向上が重要であるとの指摘がありました。このように、AI 技術導入における課題が明確になるとともに、具体的な行動の指針(組織イノベーションの必要性)を頂くことができました。

2.講演会

・特別講演会「みんなで使おう中小企業施策」(ものづくり補助金・サポイン・SBIR やその他の予算に関して)を4月に開催予定であったが、コロナ禍により未開催(中小企業庁多忙のため)

・オンライン講演会(コロナ禍により一同に会した講演会を回避しオンライン講演会へ)の開催

No.	講演日	講演者	所属	時間	講演内容	参加人員
1	令和2年 9月15日	佐藤 知正 氏	東大名誉教授	10時～ 11時30分	デジタルツインに関する考え方に基づく、ロボット技術導入について	16名
2	令和2年 10月28日	近藤 信一氏	岩手県立大学 総合政策学部教授	10時～ 11時30分	中小企業製造業 AIを利活用するためのIOT	16名
3	令和2年 12月8日	出澤 淳一 氏	株式会社エイシング 代表取締役CEO	10時～ 11時30分	品質コスト削減による超高効率化社会 の実現 製造業が抱える課題 AI実装	18名
4	令和2年 12月22日	渡部 利範 氏	株式会社テクノクオリティ 代表取締役	10時～ 11時00分	宝商サーマルシステム部は商社からもの づくりに転身して20年	12名
5	令和3年 1月12日	湯之上 隆 氏	微細加工研究所所長	10時～ 11時00分	破壊的イノベーションを起こし新市場を 創造する方法 ～社員全員がマーケッターになれ～	14名
6	令和3年 1月26日	creelman RESEARCH 氏	人事コンサルタント デイビッド・クリールマン	10時～ 11時30分	中小企業で能力の高い採用担当を置く 有効性、北米のジョブ型人事制度と人 事評価制度	18名
7	令和3年 3月9日	村井 弘道 氏	株式会社ティ・エフ・ディ 代表取締役社長 元防衛庁研究員	10時～ 11時00分	”先端アナログ電子回路”技術に関して (ミサイル、レーダをやっていた人が何 故ウィルス検出をされるのか)	13名
8	令和3年 3月30日	近藤 浩章 氏	大阪国際大学 経営経済学部 教授	10時～ 11時00分	活躍するミドルマネジメントの育成	12名

JIPA

公益財団法人 **国民工業振興会**

〒140-0002 東京都品川区東品川 4-9-26

Tel 03-6712-8302 Fax 03-6712-8303

E-mail jipa@jipa-japan.or.jp

<http://www.jipa-japan.or.jp>

LPT <http://www.Landing Pad TOKYO>